

私は片耳が聞こえません

八雲町立熊石中学校 2年 ^{まつかわ}松川 ^{かのん}楓音



みなさんはこのマークをご存知ですか。

このマークは、ヘルプマークといい、平成23年に、東京都議会議員の山加朱美やまか あけみさんが、「外見から障害者と分からない人は、日常生活でさまざまな不便を強いられている。統一マークを作り、理解促進を。」

と提案したところから生まれたマークです。ヘルプマークは障害や疾患などがあることが外見からは分からない人が支援や配慮を必要としていることを周囲に知らせることができるマークです。デザインの赤色と＋マークは「助けを必要としている」という意味で、ハートマークは「助ける気持ち」を意味しているそうです。

実は私も外見ではわからない障害をもっています。私は昨年4月、中学校に入学してすぐに左耳が難聴になりました。

難聴の方にはいろいろな人がいます。

生まれてからずっと耳が聞こえない人を、「先天性難聴」。途中から耳が聞こえなくなってしまう人を「中途失聴者」というそうです。私は「中途失聴者」の一人です。

耳のことで私はさまざまな辛い経験をしました。友達と話しているときに、「無視しないでよ。」「ほんとに聞こえてないの？」と言われてたり、年下の子から「おばあちゃんみたい。」とからかわれたりすることもありました。誰かに相談したくても私の心が何かを遮って言葉にできない日々が続いていました。この気持ちは耳が聞こえない人にしか分からないんだ…。言葉にして伝えたくても伝え方がわかりませんでした。

ある日、いつものように母とテレビを見ている時でした。心の底に溜まっていた思いが溢れてきて、気がついたら涙がこぼれて止まらなくなっていました。私は母に、これまでの辛さ、

将来への不安、自分の思いのすべてを打ち明けていました。母は最後まで聞いてくれて、私は、心が少し軽くなった気がしました。相談できる人がいて恵まれていると、しみじみ身にしみて感じました。母の、「頑張らなくていいんだよ。もう十分頑張っているんだから。」という一言に救われました。

それ以来、私には新たな夢ができました。辛い経験をしたからこそ、同じ辛さを抱えている人や同じような障害を抱えている人の支えになりたい、と思いました。今は手話通訳士の仕事に興味をもっています。

みなさんと少し違うだけなのに差別する人のことを、私はどうしても気になってしまいます。障害をもっているだけで差別してほしくない、と思っています。なぜなら私は、障害は個性だと考えているからです。

ただ、皆さんに知ってほしいことは、実は皆さんの近くにも、障害のことで辛い思いをしている人がいるかもしれない、ということです。

金子みすゞさんの「みんな違ってみんないい。」という言葉をご存知ですか？

人間を含めて地球上の全ては、違うからこそ生まれることができ、違うからこそそれぞれが存在することができたのです。

私は「みんな違ってみんないい。」のこの大好きな言葉を忘れずに、「違い」を認め合える人間になりたいです。そして、障害をもっている方も、もっていない方も、笑って暮らせる社会になってほしいです。私の主張が少しでも多くの人に届いて、障害をもつ人について考えるきっかけになってほしいと思います。

みなさんは、ヘルプマークをつけている人を見かけたらどのような行動をしますか？